



安全計画 2025年版

PONO KIDSの基本方針



私たちは、形式的な書類作成や会議よりも、児童や保護者と向き合う時間を最優先します。そのため、ICTツールを最大限活用し、情報の即時共有と効率的な研修を行うことで、実効性の高い安全管理体制を構築します。本計画は、消防計画・BCP（業務継続計画）・感染症対策指針等の包括的な指針として機能します。

1. 安全管理体制と委員会の運営

各法令で定められた委員会は、業務効率化のため**「運営会議（管理者会議）」に機能を集約して開催します。なお、繁忙期（夏休み等）は現場支援を優先するため、開催頻度は年9回程度とします。

事故防止委員会

各事業所で発生した事故・ヒヤリハットの件数・内容確認、対策検討

身体拘束・虐待防止委員会

児童の不適応行動への対応相談、支援者の関わり方の振り返り

災害BCP委員会

訓練の実施状況確認、災害時の役割分担や動きの再確認

感染症BCP委員会

- ・ 感染症発生動向調査や事業所での感染状況・訓練の実施などについて話し合う

スタッフへの周知方法

委員会議事録は、グループチャットを通じて全スタッフへ共有します。

2. 職員研修（ICT活用型）



限られた人員で支援の質を確保するため、一斉集合型の研修は原則行わず、**PONO KIDS Wikiや動画を活用した研修（非同期型研修）**を主軸とします。

実施方法

月次テーマに基づき、PONO KIDS Wiki（マニュアル・研修資料）を各自が読了し、システム上で研修記録を作成する。

内容

- ・ 安全管理マニュアルの確認
- ・ ヒヤリハット事例のケーススタディ

- 虐待防止・権利擁護に関する知識確認
- BCPおよび感染症対策の手順確認

3. 事故防止・再発防止策（システム連携）



事故・ヒヤリハットへの対応は、独自システム**「PONO Support System」**を活用し、スピード重視で行います。

報告・記録

事故・ヒヤリハット発生時は、速やかにシステムへ入力します。記憶が鮮明なうちに記録することで、正確な事実把握に努めます。

共有

入力内容はグループチャットへ自動連携され、全社員がリアルタイムで状況を把握します。これにより、他事業所でも類似の事故を防ぐ注意喚起となります。

分析・改善

重大な事例や傾向については、月次の運営会議（委員会）にて分析し、再発防止策をWikiに追記・更新（マニュアル改訂）します。

4. 児童への安全指導



日々の療育活動の中に安全指導を組み込み、自然な形で身につくよう支援します。

- 日常生活**：手洗い・うがいの励行、身の回りの危険箇所の認知。
- 活動時**：散歩や外出時の交通ルール指導、遊具の正しい使い方の指導。
- 送迎時**：乗降時のルール指導、点呼への協力。
- 訓練時**：避難訓練等の実施時に、身を守る行動（ダンゴムシのポーズ等）を指導。

5. 災害対策・避難訓練



消防計画およびBCPに基づき、以下の通り実施します。

- 避難訓練**：消防計画に定められた回数（年2回以上）実施する。
- 災害備蓄・点検**：年1回以上、備蓄品の期限および避難経路の安全確認を行う。
- 送迎安全（重要）**：送迎車両の安全装置（置き去り防止ブザー）の作動確認を毎日実施し、降車時のダブルチェックを徹底する。

年間安全管理スケジュール

*本スケジュールは目安であり、事業所の状況やリスクに応じて柔軟に変更します。

委員会

種別	タイトル	法定要件・推奨頻度
委員会	感染症対策委員会（BCPと兼務可）	おおむね3ヶ月に1回以上（義務）
委員会	業務継続計画（BCP）委員会	年1回以上（義務）
委員会	虐待防止・身体拘束適正化委員会	年1回以上（義務）
委員会	事故防止・安全対策委員会	年2回以上（義務）

研修

種別	タイトル	法定要件・推奨頻度
研修	感染症対策研修	年2回以上（義務）
研修	業務継続計画（BCP）研修	年1回以上（義務）
研修	虐待防止・身体拘束適正化研修	年1回以上（義務）
研修	事故発生防止・安全管理研修	年2回以上（義務）
研修	個人情報保護・プライバシー保護研修	年1回以上（推奨）
研修	送迎安全管理研修	年1回以上 *置き去り防止等の安全管理マニュアルに基づく研修

その他

種別	タイトル	法定要件・推奨頻度
監査	自己評価・保護者評価の公表	年1回（義務）
監査	安全計画の策定・見直し	年1回（義務）
監査	内部監査（法令遵守点検）	年1回（推奨）